

# 地域再生可能エネルギー熱導入促進事業

## <室蘭信用金庫地中熱ヒートポンプ設備概要>

現在、主な1次エネルギーとして、電気、ガス（LPG）・石油（A重油・灯油）が使用されています。

環境問題に配慮すると、化石燃料の使用は極力控えるべきですが、コスト及び備蓄を考慮すると、多くの施設で化石燃料に依存した設備導入が行われているのが現状です。

しかしながら、長期的な持続が予想される電力不足や高まる環境意識の中で再生可能エネルギーの利用検討は、欠かすことのできない項目です。

そこで、化石燃料からのリノベーションと同時に、エネルギーの地産地消を実現できるエネルギーとして「**地中熱**」を用いた、ヒートポンプシステムを採用いたしました。

当金庫では、地中熱ヒートポンプシステムを利用して、本部ビル1階の東町支店でロビーの床暖房を行っております。

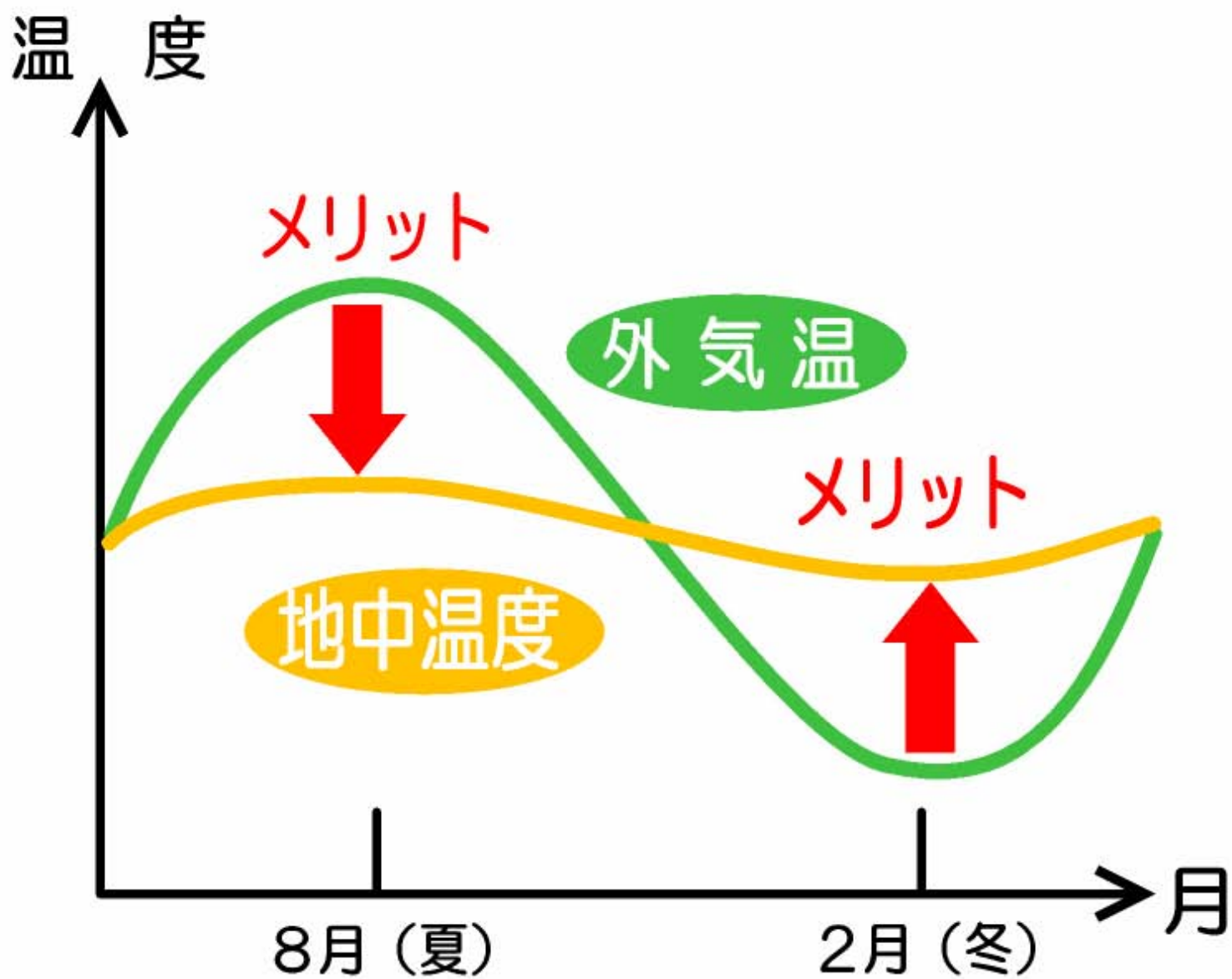
## ■ 地中熱ヒートポンプシステムとは

地表から深さ100m程度までの、どこにでも存在する豊富な熱源「地中熱」を冷暖房のエネルギーとして地下から回収し、ヒートポンプの熱源として用いることで温水循環方式の暖房または冷水供給を共通のヒートポンプで行えるシステムです。

冷暖房に必要なエネルギーの70%程度を地中熱で補うため、低コスト、環境性に優れたシステムです。

特に地中熱は、他の再生可能エネルギーと違い、気象条件に左右されない高い安定性を兼ね備えた「どこでも・誰でも・いつでも」利用できるユビキタス性が最大の特徴です。

# 外気温と地中温度変化のイメージ



# 地中熱ヒートポンプシステムイメージ

